

高校2年生は、10月24日から27日の3泊4日の日程で京都・奈良にて修学旅行を行いました。

1学期終了時に、自主行動の予定表を班ごとに作るという課題を出しました。夏休み中に生徒たちは、スプレッドシートを使って共同作業を行い、提出しました。従来ならば一同に会して作成していたものがICT(情報通信技術)を活用し時間や場所の制約を受けずに課題を作成することを体感でき、テレワークが叫ばれる現在、今後仕事をする上でICTをいかに活用するかという大切さを学ぶことができた体験だったと思います。

吉野では座禅を行いました。200人ほどがいることを忘れるほどの静寂の中、外の雨音だけが生徒たちをすっぽりと包んだかのようでした。自分の内面と対話し、省察を深めたことでしょう。その他、能体験など、日本文化に多くふれあい、日本の魅力を改めた感じた修学旅行でした。修学旅行を通じて、生徒が感じとったことをご紹介します。

「母国文化の価値」

今回の修学旅行は2年前のものより私たち自身が主体となって動く要素が多く、積極的に日本の文化に触れることができました。訪れた数々のお寺の歴史と自分の持っている日本史の知識を照らし合わせることで、新たな発見があり、とても良い経験になりました。また繊細な和菓子作りを体験したり、日本の伝統芸術である能を鑑賞することができ、将来世界において日本を背負う身として、母国の文化を学べてよかったです。今まで特に誇りには思っていなかった日本文化ですが、この修学旅行を通じて日本文化のすばらしさに気づくことができ、海外に住んでいた時に日本出身であることをうらやましがられた理由も少しわかった気がします。

また、日本文化に対する理解だけでなく、共に色々な思い出を作ったクラスのみんなとの絆も深まりました。最後の行事ではありましたが、今後もお互いに支えあう存在でいられるよう、仲間を大切にしようと思います。

